

災害に関連した消費者トラブル

落ち着いて、家族や周囲の人・消費生活センター等に相談しましょう

突然、訪問してきた業者が、「地震で屋根瓦が落ちているのですぐに修理をしないと危ない」と何度も言うので、不安になって契約をした。内容を詳しく説明せずに工事をし、高額な請求をされた。



強引に勧誘されても、急いで契約をしないようにしましょう。落ち着いて工事の内容や金額を確認し、周りの人に相談したり、複数の業者から見積もりを取りましょう。

もし契約してしまっても、特定商取引法(※)の訪問販売に該当する場合は、契約書面をもらってから8日以内はクーリング・オフができます。

また、勧誘の仕方などによっては、クーリング・オフの期間が過ぎても、契約を取り消すことができます。できるだけ早く、消費生活センター等に相談しましょう。

(※)「特定商取引に関する法律」

暴風雨の後、壊れた家屋を「全て火災保険の保険金で修理できる」と修理業者に言われたが、信用してよいか分からない。

火災保険の契約内容によるので、修理業者の言葉をうのみにせず、まずは保険契約書の内容を確認して、保険会社に問い合わせましょう。その上で、工事を依頼するかどうかを慎重に検討しましょう。

※暴風雨が原因で屋根が壊れた場合でも、契約内容によって火災保険で補償してもらえることがあります。



●●災害支援センター職員を名乗り、義援金を集めていると訪問してきた。信用していいだろうか。



義援金を行政機関が来訪や電話で集めることはありません。不審な話には応じないようにしましょう。義援金など寄付をする場合は、募集している団体等の活動や使い道をよく確認し、納得した上で行ってください。指定された振込先が、本当にその団体の正規の口座かを確認することも大切です。

その他、災害に関連する相談例とアドバイスは、消費者庁ウェブサイトも参考にしてください!

HP 消費者庁 災害関連情報 検索 [URL] <http://www.caa.go.jp/disaster/>



高齢者の見守り

本人は被害に遭っていることに気が付かなかったり、相談することをためらったりすることがあります。トラブルを未然に防止するためには、家族や周囲の方の見守りが大切です。次の見守りポイントを参考に、身近な消費者被害を防止しましょう。

見守りのポイント

- 見慣れない人が出入りしている
- 新たにリフォームした跡がある
- 見慣れない段ボールなどが積まれている
- 金銭に困っている様子がある
- 生活用品などが新しいものになっている(浄水器、布団など)
- 金融関連のパンフレットや送付物が置いてある

悪質業者から身を守るために

お断りステッカーを貼りましょう

お断りステッカーを玄関付近の訪問者から見える場所に貼りましょう。悪質な事業者の強引な勧誘をけん制できます。必要な方は、お住まいの市町村の消費生活相談窓口、または大阪府消費生活センターにお問い合わせください。

問 府消費生活センター

☎ 06(6612)7500

